石段奉納

この度、崇敬者様の篤いご信心とご寄進によりまして、幣殿拝殿横の階段を整備いたしました。皆様のご厚情に感謝申し上げます。

三十万円以上

足立区　瀬田 甚一

八王子市　八木岡 照義

横浜市都筑区　吉野 浩司

（順不同　敬称略）

御嶽神社あれこれ

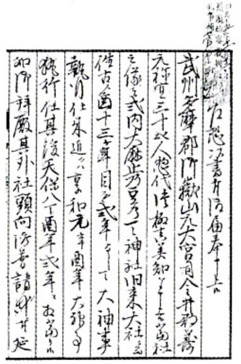
明治六年の式年大祭

靱矢 嘉史

今から一四四年前、明治六年（一八七三）酉年の式年大祭に向けた様子について、御嶽山に伝えられている古文書から紹介しましょう。

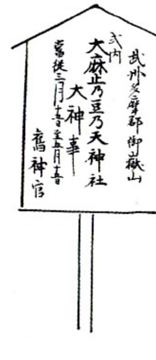
式年の前年、明治五年十月、大宮司（神主）と禰宜（御師）の代表の二名が、当時御嶽山が所属していた神奈川県の権令（現在の知事）である大江卓に対し、式年大祭について願書を提出します。願書の要旨は、「延喜式内社の大麻止乃豆乃天神社である御嶽山では、往古から酉年を式年として大神事を執行してきた。来年明治六年は酉年で式年にあたるため、大神事を執行し、参拝者に神宝を拝覧させ、二月十五日から四月十五日までの六十日間、神饌をお供えし天下泰平・五穀成就の祈願を神職一同で精勤したい。」というものでした。この願いは十一月九日に神奈川県権令に許可されました。

明治六年一月二十二日には神主・御師の代表が入間県（およそ現在の埼玉県西部）に対しても願書を提出します。この願書では、川越町（現・川越市）・扇町屋村（現・入間市）・飯能村（現・飯能市）・小川村（現・比企郡小川町）・松山町（現・東松山市）・所沢村（現・所沢市）に式年大祭の立て札設置を願っています。立て札には、三月十五日から五月十五日（明治六年に太陰暦から太陽暦に変更されたため、期間が一ヶ月繰り下げられる）の「武州多摩郡御嶽山式内大麻止乃豆乃天神社　大神事」の執行が記されます。入間県は立て札設置を許可しました。同様の願書を東京府（現在の東京都）にも提出し、許可を受けています。崇敬者に向け、式年大祭を案内した文書も残されています。



明治５年　神奈川県権令宛
式年大祭執行願書
（金井家文書）

この文書では、「武蔵国多摩郡御嶽山式内大麻止乃豆乃天神社大神事並びに神宝博覧会」の公許を受け、東京府・各県の町・村に立て札を設置し、三月十五日から五月十五日まで祭祀を執行して国家安泰・五穀成就を祈願する旨を伝え、崇敬者に対し、神社参拝と神饌奉納・太々神楽奏上を願っています。神饌として「御酒」「御供米」「畑ノ物」「山ノ物・海ノ物」、他に「灯明（水油・ろうそく）」などの奉納を願い、奉納者には、その姓名を記録して御神前で安全祈願を行い、「御祓・玉串・御流箸」を進上するとしています。



明治６年
式年大祭 立て札文案
（金井家文書）

明治維新によって近代という新たな時代が到来します。明治六年は近代最初の式年大祭ということになりますが、春の二ヶ月間、現在と同じように崇敬者に支えられて執行されたことがわかります。

江戸時代、関東の各村では御嶽山に参拝する御嶽講が結成されていました。立て札が設置された川越、所沢などの町・村は、関東各地域の経済・交通の要地で、数多くの人びとが集まります。既に御嶽講に属している崇敬者に加え、それ以外の人びとにも式年大祭を周知して参拝してもらうために立て札を設置したと考えられます。

明治初年の御嶽山では、新たな情勢に対応すべく様々な模索と努力を重ねていました。明治七年には、神奈川県社の社格に列せられて「御嶽神社」と称することになり、翌明治八年には御嶽講が「豊穂講社」として再編成されます。御嶽山は、江戸時代からの伝統を保持しつつさらに御神徳を広め、講中をはじめ、関東を中心とする多くの崇敬者の信仰を集めることとなり、現在の武蔵御嶽神社に至ります。

明治六年の式年大祭は、近現代へと歩んでいく御嶽山の出発点の一つだったのではないでしょうか。

【参考文献】『武州御嶽山文書』第二巻・第三巻（法政大学・青梅市教育委員会、平成十七年・二十一年）

武州みたけ

講中を訪ねて

中野区　鷺宮御嶽講中

講元　大野 道髙

鷺宮講中は、中野区の北西部に位置し杉並区・練馬区に隣接しており、西武新宿線の鷺ノ宮駅を中心とした地域です。当講中は徳川末期、父祖の篤い信仰心のもと下鷺・上鷺宮全域に於いて、百五十有余年絶えることなく信仰心が続いております。幾度となく参拝記念碑の話がもちあがったようですが実現には至っておりませんでした。昭和五十八年に再び記念碑建立の話が持ち上がり、当時の講元大野錦作氏を中心とした世話人の方々と御師の須﨑直衛先生のご協力もあり、講中の方々の長年の願いでもあった『永代参拝記念碑』が建設され昭和五十九年四月十二日に除幕式が行なわれました。【場所は青銅鳥居のある参道東側、桜樹の下に高さ七尺・幅三尺五寸・厚さ四寸の碑が建ちました。表文字は須﨑直衛先生直筆です。】この年は何度も大雪が降った年と記憶しています。例年四月十二日に須﨑御師宅（嶺雲荘）に伺い本社への参拝をしています。

私は、父が他界したので平成十年より世話人になりました。平成二十七年より鷺宮御嶽講中の講元をお受けしました。現在の講中の状況は、中内・大境・北原の三地区で五十名ほどの講員で構成されています。各地区で三月中に御日持を開いて代参の方を選んで、四月十二日に御嶽神社へ参拝をし御借り換えをしております。毎年四月十五日と九月十五日に末社に御神酒・御供え餅を供えて参拝をしています。これからも、須﨑直洋御師様の御指導のもと「みたけ講」を末永く伝承して行く事がわれわれの使命と思っております。

最後に御嶽神社と須﨑直洋御師宅の繁栄をお祈り申し上げます。

主幹宮司　須﨑 直洋
所在地　東京都中野区
講員数　約五十名

奉祝・東馬場家

六月十六日（金）に、御師・馬場家の長男 馬場 晃一さんが、森 佳世子さんとご結婚されました。喜びの声をお届けします。

私達は、生まれも育ちも全く違った環境でしたが、御岳山で出会い、今年６月１６日武蔵御嶽神社大前にて、皆様に見守られる中、夫婦となることができました。

このご縁に感謝し、二人で力を合わせ、私達らしい家庭を築いて行きたいと思います。どうぞあたたかくお見守り下さい。

馬場 晃一・佳世子

ご相談・受付はお電話にて・・・

婚礼の儀

斎主　一人～三人奉仕

伶人　一人～三人奉仕

典儀（ご案内）　一人

※控え室はございますが、和装等のご用意はありません。衣装・着付・ヘアメイクについてのご紹介は可能です。ご相談下さい。